

地域内部における地域活性化の課題に関する考察－地域への意識と外出行動の観点から－

東北工業大学 学生会員 ○上田 晴斗
東北工業大学 正会員 泊 尚志

1.はじめに

日本の社会問題として、人口問題が挙げられており、対策として国や地方自治体が行っている地域活性化や地域創生¹⁾は、地域資源を活用やイベントの開催による交流人口の増加、定住や移住を促進することによる人口増加を狙った政策や活動が行われており「地域外からの人の獲得」を重要視している。本稿の目的は、外出行動と地域に存在している人の意識の関係性を示すことの意義を考察することである。紙面の都合上、既往研究の整理とアンケート調査の内容の報告とし、アンケート調査の結果は講演時に報告する。

2.既往研究の整理

2.1 地域活性化に携わる主体ごとの地域への意識

既往研究²⁾⁻⁸⁾のレビューを通じて、地方での地域活性化に関わっている人たちが持つ地域への意識について整理したものを表1に示す。これに対して本研究では地域内部での地域活性化における人と地域の関わりという観点から、「市民と住民」の地域への意識について着目する。表1より市民や住民の意識としては、住民による地域活性化の活動をすることで、生活面のニーズや地域資源を活用することによるブランドイメージの向上や地域資源や文化の継承、地域の景観保全といった意識がある。

2.2 外出行動と地域活性化

また、地域活性化に対する意識が外出行動と関係すると考えられる。既往研究では、買い物サービスや自動運転車の利用による外出頻度への影響^{9), 10)}や、鉄道会社におけるメディア運営と拠点開発を通じた地域コミュニティづくりの有用性¹¹⁾、「消費行動」が「地域愛着」に及ぼす影響¹²⁾について論じられている。同様の既往研究は多くみられるが、外出行動のパターンと地域への意識についての関係を見る研究は

表1 主体と「地域への意識」「地域の価値」²⁾⁻⁸⁾

<p>〔行政・観光関係〕</p> <p>1. 地域資源となる部分をPR・情報発信活動 ⇒地域の「問題・課題」となりうる点を解決</p> <p>2. 地域コミュニティの形成 〔市民・住民（労働者・農家も含め）〕</p> <p>1. 住民による地域活性化への働き ⇒・地域のニーズ（生活面）を反映させやすい ・地域資源の活用により市のブランドイメージの向上</p> <p>2. 地域資源・文化の継承、地域の景観保全、生活面の改善 〔宿泊経営（観光面）〕</p> <p>1. 〈地方都市〉地域の情報も交流や発信の場（地域復興の社会的要素）</p> <p>2. 〈都市部〉日常的な交流やカフェのような機能への期待 〔観光客〕</p> <p>・宿泊・滞在の場としての価値⇒宿泊施設自体の環境に重視 （宿泊地周辺の魅力は副次的要素とされている）</p>
--

数少ない。以上を踏まえて本研究では、地域と人を結ぶ要素を、外出頻度や交通手段、外出目的といった外出行動とし、外出行動と地域への意識の関係性から地域活性化の課題を示す。

3.「外出行動」と「地域への意識」の関係性の調査

3.1 調査目的

従来の地域活性化の政策は「地域外からの人の獲得」を重要視しているが、本研究では地域活性化を人と地域の関わりとしてとらえたいうえで、地域に存在している人たちの地域への意識が地域活性化に影響しないのかと考える。したがって本研究のねらいを改めて論じると、地域と人を結ぶ要素を外出行動とし、外出行動と地域への意識の関係性から地域活性化の課題を示すことにある。本研究では、「外出頻度が多ければ地域に接する時間が長く、地域への意識が多様であり、地域への関心が高い」、また「交通手段や外出目的において、利用する回数や時間によって外出行動をしている間に感じている地域への意識が異なる」という考え方に基づき、次の仮説について検証する。すなわち、「外出頻度や利用している交通手段、外出目的といった外出行動と、地域内部の人たちの地域への意識の間には相関がある」。この仮説を検証するために、アンケート調査を実施する。

キーワード 地域内部における地域活性化，地域への意識，外出行動

連絡先 〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35 番 1 号，電話 022-305-3533

3.2 調査内容

調査は、web 調査を利用して全国の調査モニタを対象に行った。調査項目は、表2の示すとおり、Q1～Q4では地域への意識の質問として、Q1では地域の人を中心市街に対して感じる観点、Q2では地域の人地域活動への参加状況、Q3では地域資源や地域ブランドに対する認知度、Q4では生活環境を充実させている要素、また、Q5～Q7では外出行動に関する質問として、Q5では1週間の外出頻度、Q6では利用する交通手段、Q7では外出目的について聞くために、このような7項目に設定した。分析方法は、回答結果より、クロス集計を行って、項目ごとの相関や関係性を分析した。

4.まとめ

本稿では、地域活性化に携わる主体ごとの地域への意識と、地域活性化に対する意識と外出行動の関係性についての既往研究を整理し、外出行動と地域への意識の関係性を調査する目的について述べてきた。また、アンケート調査の結果については、講演時に調査結果を報告する。

参考文献

- 1) 地域経済好循環拡大推進会議（全国連絡会）、〈第一部〉経済の好循環に向けた総務省地域力創造施策、〈第二部〉地域力創造グループ施策について総務省、地域力創造グループ、2022-1-22
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/r03junkankaigi.html（参照：2023-1-23）。
- 2) 河本大地：地域の価値づけという実践—兵庫県美方郡香美町小代区の「日本で最も美しい村」連合加盟をめぐる大学と地域との連携・協働のプロセスから—、次世代教員養成センター研究紀要、5巻、p185-195、2019。
- 3) 三森八重子、久保裕史：P2Mを用いた小水力発電による地域活性化事業評価、国際P2M学会研究発表大会予稿集、p125-138、2016。
- 4) 除本理史、林美帆：「地域の価値」の構築をめざす協働の取り組み：岡山県倉敷市水島地区の事例から、大阪公立大学経営学会、経営研究、73巻1号、2022。
- 5) 片桐由希子、梶山桃子、東秀紀：都市部の簡易宿所型ゲストハウスにおける交流機能に関する研究、観光科学研究、8巻、p61-69、2015。
- 6) 菊地直樹：北海道知床半島のシマフクロウを「見せて守る」ための実践的課題、保全生態学研究、2022
- 7) 望月領人、岸昭雄：公共交通を活かしたエリアマネジメントの推進に関する研究—草薙地区を例として—、経営情報イノベーション研究、9巻、2020。
- 8) 大和田辰明、北澤大佑：農業農村整備事業における環境配慮とアメニティの重要性、農業農村工学会誌、85巻17号、2017。
- 9) 伊勢昇、湊絵美：買い物支援サービス導入による買い物における外出頻度の変化に関する研究、交通工学論文集、第3巻第2号（特集号A）、pp68-75、2017.2。
- 10) 香川秀仁、川本雅之、栗野盛光、谷口守：自動運転車（ADV）利用がもたらす外出行動への影響—目的に応じた頻度・目的地の変化に着目して—、交通工学論文集、第3巻第2号（特集号A）、pp1-10、2017。
- 11) 梶山真人、十代田朗：鉄道会社によるメディア運営と拠点開発を通じた地域コミュニティづくりの実践、公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集、Vol55No1、2020。
- 12) 鈴木春奈、藤井聡：「消費行動」が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究、土木学会論文集、Vol64No2、190-200、2000。

表2 アンケート項目

<p>Q1.あなたが住む町や中心市街地を利用する際に感じる観点は次のうちどれですか。 「若者の流入・流出」「来街者の増加・減少」「小売業等商業施設の増加・減少」「オフィス等業務機能の向上・低下」「医療・福祉サービス機能の向上・低下」「教育サービスの機能の向上・低下」「商業・公共サービスの各種施設の状態」</p>
<p>Q2.あなたが住んでいる地域で行われている地域活動にどれだけ参加していますか。 ・複数参加している・参加している・参加していない ※地域活動の例は、交流、お祭り伝統行事、防災、交通安全、高齢者福祉、子育て支援、青少年の育成、環境保全、スポーツなどに関するボランティア活動や町内会活動です。</p>
<p>Q3.あなたが生活している地域の地域資源や地域ブランドについてどれだけご存じですか。 「農林水産品・伝統工芸・観光資源・技術・産業基盤・地域の歴史や文化」の項目に対して 「よく知っている・知っている・どちらでもない・知らない・全く知らない・存在しない」 の6項目から一つ選択</p>
<p>Q4.あなたの住んでいる地域の生活環境に関して、今、生活を充実させている要素としてあてはまるものを選択してください。 「公園が身近にあること」「海や山、川、水辺などの自然景観があること（公園を除く）」「建造物などの街並みがきれいなこと」「安全に歩ける歩行・自転車空間が整備されていること」「買い物などの都市サービスの利便性があること」「近隣に対する暮らしのマナーやモラルがあること」「地域のコミュニティとのつながりがあること」「その他（自由記述）」「特にない」</p>
<p>Q5.あなた自身の、1週間に外出する日数として最も多いパターンを次のうちから選択してください。 7日・6日・5日・4日・3日・2日・1日・しない ・外出の定義：屋外に出た場合を外出とする ※ただし、家の敷地内での活動における外出は除く ※通勤通学の場合、学校や仕事終わりに立ち寄った場合を外出とする</p> <p>〔Q5で「7日」「6日」「5日」「4日」「3日」「2日」「1日」のいずれかを選択した方〕</p>
<p>Q6.日常生活で利用する交通手段のうち、最も利用回数の多いものと最も利用時間の長いもの、それぞれ1ずつ選択してください。 鉄道・バス・自家用車・徒歩・自転車・その他</p> <p>〔Q5で「7日」「6日」「5日」「4日」「3日」「2日」「1日」のいずれかを選択した方〕</p>
<p>Q7.日常生活の中での外出目的のうち、外出回数の最も多い目的と行動時間の最も長い目的を、それぞれ1ずつ選択してください。 通勤・通学・業務・通院・買い物・食事・家族や知人と会う・レジャー（娯楽・趣味を含む）・その他</p>